

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（心理学）	氏名	堀田 裕司
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
職場におけるソーシャルサポート向上のための対人的援助の効果			
論文審査担当者			
主査	教授	岡本 祐子	
審査委員	教授	森永 康子	
審査委員	教授	杉村 和美	
審査委員	准教授	大塚 泰正（筑波大学人間系）	
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、職業性ストレス理論に基づいて、職場におけるソーシャルサポート向上のための対人的援助の効果について検討したものである。本研究では、労働者のストレス反応を低減させるために重要な「知覚されたサポート」を高める要因として、組織市民行動における対人的援助に着目し、対人的援助を高めることによって知覚されたサポートが向上することを検証した。本論文は、以下の4つの章から構成されている。</p> <p>第1章「背景と目的」は、第1節「職業性ストレスとソーシャルサポートの関連」、第2節「知覚されたサポート向上のための対人的援助」、第3節「本研究の目的」からなる。第1節では、労働者のストレス反応を低下させる要因として重要な知覚されたサポートについて概説した。第2節では、知覚されたサポートを増加させる要因として組織市民行動における対人的援助を取り上げ、対人的援助を行うことで人間関係が改善し、知覚されたサポートが向上する可能性について述べた。第3節では、以上の背景を踏まえ、本論文では、対人的援助と知覚されたサポート、量的負担、心理的ストレス反応、活気の関連を検討すること(研究1)、さらに、対人的援助向上プログラムを作成・実施することによって、対人的援助、知覚されたサポート、および量的負担の増加、心理的ストレス反応の低下、活気の上昇を、企業の現場における実践研究として検証すること(研究2)という本研究の目的を述べた。</p> <p>第2章「対人的援助行動が心理的ストレス反応および活気に影響を及ぼす過程の検討（研究1）」では、対人的援助と知覚されたサポート、量的負担、心理的ストレス反応、活気の関連を検討することを目的として、製造業労働者を対象に質問紙調査を実施した。その結果、対人的援助と知覚されたサポート、知覚されたサポートと活気、対人的援助と量的負担、量的負担と心理的ストレス反応の間に、それぞれ有意な正の関連が認められた。また、知覚されたサポートと心理的ストレス反応の間に有意な負の関連が見られた。さらに、対人的援助が知覚されたサポートを増加させる効果は、対人的援助が量的負担を増加させる効果よりも大きいことが示された。</p> <p>第3章「職場における対人的援助向上プログラムの効果評価（研究2）」では、対人援助向上のためのプログラムを作成し、実施することにより、対人的援助を増加させること、また対人</p>			

的援助が増加することにより、知覚されたサポートと量的負担が増加すること、さらに知覚されたサポートが増加することで活気が上昇し、心理的ストレス反応が低下することを検証することを目的とした。対人的援助向上プログラムを実施することで対人的援助が増加し、対人的援助が増加することで、同僚サポートが増加したことが、製造業の企業現場における介入プログラムの実践によって実証された。

以上より、職場における対人的援助はある程度の量的負担の増加を伴うものの、それ以上に、心理的ストレス反応の低減や活気の上昇のために有効なソーシャルサポートを増加させることが示された。また、介入プログラムの実施により対人的援助が増加し、対人的援助が増加することで同僚サポートが増加することが明らかとなった。職場における対人的援助の実践は、特に同僚サポートを増加させるために有効であることが示唆された。

第4章「総合考察」では、第1節にて、本研究の成果を、第2節にて、本研究の限界と今後の課題について述べた。

本論文は、我が国において職業性ストレス、中でも職場での対人関係に関する問題による労働者のメンタルヘルスの悪化が指摘されている今日、次の2点において、高く評価することができる。

1. 対人的援助によって、心理的な仕事の量的負担が増大するが、それ以上に知覚されたソーシャルサポートが増加することを示し、対人的援助の意義を実証的に示唆したこと。
2. 仕事量を減らさずにストレス反応を低減させるためには、ソーシャルサポートが重要であるが、現実にはソーシャルサポートを向上させることは非常に困難であった。この状況を打開するために、職務遂行と並行して対人的援助を行うことによってソーシャルサポートを高める一方略として、対人的援助向上プログラムを開発したこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(心理学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成28年2月15日